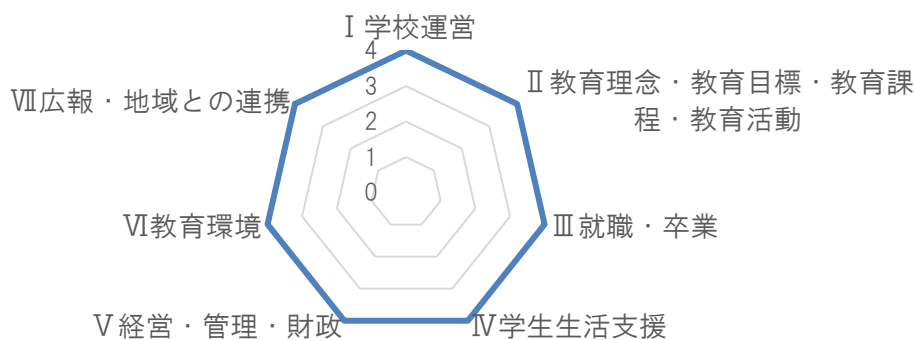


令和6年3月26日

学校関係者評価 委員長 黒川 順子（滋賀県済生会看護専門学校 前副校長）
 委員 槌田 洋子（岡山済生会看護専門学校 同窓会会長）
 三上 由美（岡山済生会総合病院 看護部長）
 伊達 千華（岡山済生会看護専門学校 令和3年度卒業生）

学校関係者評価 7領域31項目の結果 評価基準 満たしている 4 1改善すべきである



カテゴリー	評価点	概要
I 学校運営	4.0	すべてのカテゴリーで自己評価を支持。 ・ICT を活用し組織の意思疎通を図り目標達成にむけて運営を行っている。
II 教育理念・目標・教育課程・教育活動	4.0	また、業務の効率化を図っている。 ・学生の学力格差、多様化している中で、学生個々に合わせた学習支援や教授方法を工夫している。また、学生が主体的に学べるよう ICT 化を図り環境も整えている。ただ、学生の価値観も変わっており、教授者からの伝え方を検討しないと意図が伝わりにくいと感ずる。今後も検討を重ね、さらに良い教育活動ができることを期待する。
III 卒業・就職	4.0	・ホームカミングデイは、卒後1年目を対象に行っているが、卒業生からの希望として、卒後2,3年目も対象に行うことを検討してほしい。
IV 学生生活支援	4.0	・全学年で満足度調査を実施して学生の声を聴き、学生生活、学習環境を整えるよう努めている。次年度から義務となる合理的配慮についても規定や職員の研修を終えて準備が整えられている。
V 経営・管理・財政	4.0	・教員の看護実践能力・教育実践能力向上の取り組みとして母体病院への研修や他校へ研修をしており、今後も継続してほしい。
VI 教育環境	4.0	・地域への広報活動は学生の協力も得ながら SNS で発信をしている。また、地域の活動にも参加、看護教員のインターンシップ制度など新しい取り組みもされている。これらの活動が「信頼され選ばれる学校」につながると感じた。
VII 広報・地域との連携	4.0	